

カナダ金融政策（2023年7月）

2会合連続の利上げを決定

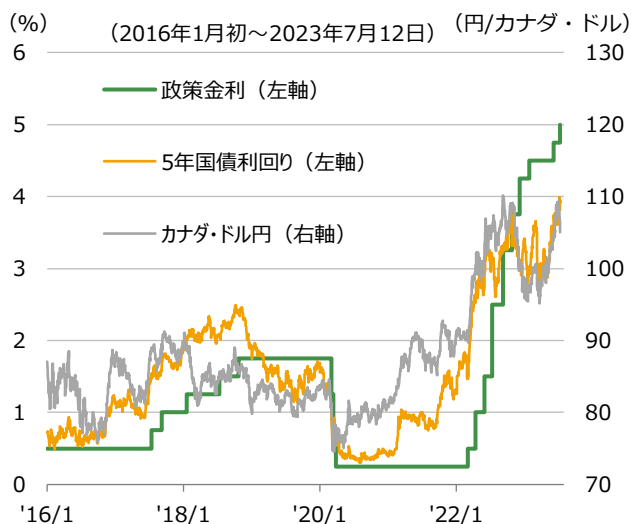
2023年7月13日

追加利上げの有無、ひいては金利・為替の動向は今後のデータ次第

カナダ銀行（中央銀行）は7月12日（現地）に金融政策決定会合を開催し、政策金利を4.75%から5.00%に引き上げることを決定しました。声明文では、プラスの需要ギャップとコアCPI（消費者物価指数）の高止まりがより持続的になっているため、経済と物価の見通し上方修正を考慮した上で、利上げ決定に至ったと説明しています。四半期に1度の金融政策報告書に基づく、同行が利上げの一時停止を表明した今年1月時点の予想と比較した場合、需給ギャップがマイナスに転じる時期は来年1-3月期へと3四半期後ずれし、2%の物価目標が達成される時期は2025年半ばへと2四半期後ずれしています。今後の方針について、マクレム総裁は記者会見でデータ次第とのスタンスを崩さず、追加利上げに関して肯定も否定もしませんでした。なお、前回会合の直後にカナダ銀行は、コロナ禍を経て自然利子率が上昇する可能性を示していましたが、中立金利は2～3%（自然利子率+物価目標）との推計が据え置かれました。自然利子率の見直しに関する結論は、年次改定の来年4月まで持ち越しになりそうです。

今会合での利上げ決定は市場予想通りでしたが、一部に政策金利の据え置きを予想する市場参加者がいたほか、今回での利上げ打ち止めを予想する市場参加者が多かったため、発表直後にカナダ・ドルは米ドルに対して増価しました。しかし国債利回りは、直前に発表された米国の6月CPIの下振れによる米金利低下の影響を強く受けて前日比で低下し、同様の理由でカナダ・ドル円も下落しました。

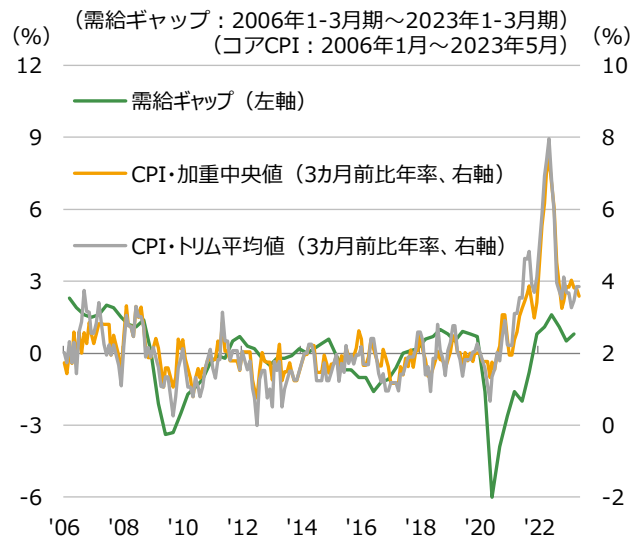
カナダの金利と為替



※政策金利は決定日ベース

(出所) ブルームバーグ

カナダの需給ギャップとコアCPI



※需給ギャップはカナダ銀行が金融政策報告書で公表している推計値

(出所) カナダ銀行、カナダ統計局

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management